

4000年ぶりに佐鳴湖に丸木舟を浮かべ、 縄文時代の航行実験を行います。

縄文時代後期（約4000年前）の集落遺跡である蜷塚遺跡（国史跡、浜松市中央区蜷塚四丁目）の再整備事業を進めている浜松市博物館では、縄文時代の佐鳴湖や浜名湖とのつながりを検討するため、11月23日、復元した丸木舟を佐鳴湖に持ち込み、縄文時代の航行実験を行います。

1 蜷塚遺跡の概要

時代 縄文時代後期（約4000年前）

内容 貝塚を伴う集落遺跡。1955年～1958年に浜松市が実施した発掘調査によって、東海地方では随一の保存状況が明らかにされた。貝塚からは貝や魚などが出土し、湖や海に積極的に出向いていたことが判明している。1959年国史跡指定。

2 蜷塚遺跡の再整備事業

2023年度から2026年度の4か年を目途に、整備工事の計画及び施工と調査研究事業を進めている。2024年には、最新の研究成果を整備事業に反映させることを目標に、丸木舟の航行実験など、多角的な調査や活動を外部研究者の協力で行っている。

3 丸木舟の航行実験

日時 11月23日（土・祝）13:00～16:30

会場 佐鳴湖漕艇場及びその周辺

内容 縄文人と佐鳴湖の関係の講義をふまえ、応募した市民が4人一組で丸木舟に乗り込み、佐鳴湖での航行実験します。



蜷塚遺跡と丸木舟 丸木舟は、海と舟に触れあう機会を創出し、貴重な体験をしてもらえることを目的に海洋冒険家の鈴木克章氏が2021年に制作したもの。浜松市天竜区春野町にある樹齢約140年のスギを切り出し、全長5m58cm、幅65cm、高さ50cmの大きさに加工した。実際に乗舟できる。佐鳴湖に持ちこみ乗舟するのは今回が初めて。